

### —概要—

診療情報管理係は、診療記録や診療情報の適正な運用支援ならびに適切な保管管理のもと情報活用を支援する部署である。

日頃より診療記録を整備し、有効かつ効果的に情報活用できる精度の高い記録を目指すとともに、職員教育や研究をサポートすることで、今後より良い医療を患者に提供できるように情報管理の側面からチーム医療を支援している。

また診療情報管理業務のほか、大阪府がん診療拠点病院としてがん登録を行うことで、国のがん対策や都道府県の地域医療計画にも寄与している。

### —体制—

診療情報管理係は事務局医療マネジメント課に属しており、常勤の診療情報管理士5名を配置している。

※診療情報管理士とは、院内の診療情報を高い精度で機能させ、そこに含まれる情報をニーズに適した形で提供、活用することにより医療の安全管理や質の向上および病院の経営管理に寄与する職種である。

### —主な業務—

診療記録の運用支援  
診療記録の監査、改善  
診療記録の保管管理  
診療記録の電子化支援  
傷病名コーディング  
院内がん登録、全国がん登録  
DPCの精度管理  
DPC制度にかかる調査  
診療情報の活用支援  
教育、研究用データの作成  
臨床評価指標の作成  
DPC病院指標の作成  
各種統計の作成  
調査データの作成  
関連システムの保守  
クリニカルパスの運用支援  
院外研究、アンケートの協力  
職員研修  
診療情報管理委員会を含む11の委員会活動

### —主な実績—

- 1 退院症例における診療記録点検  
(退院症例数 9,785件)
- 2 院内がん登録、全国がん登録  
2018年症例登録数：1,037件
- 3 傷病名マスタ管理：573件 更新
- 4 診療情報等のデータ提供支援：323件
- 5 診療録開示対応：162件
- 6 職員研修実施(情報セキュリティ、カルテ等)
- 7 診療情報管理委員会事務局活動(抜粋)
  - ・退院翌日から14日以内のサマリ記載率が90%以上維持のための支援
  - ・診療記録の運用調整
  - ・診療記録様式の作成と改訂
  - ・保管記録の整理
  - ・多職種診療録監査の実施
- 8 実習生受け入れ：2名

### —今年度の成果と反省点—

2019年度は前年度から引き続きDPCコーディング監査に注力し、DPCにおける精度管理や精度の向上に貢献できたと考える。このほか診療情報管理部門としてDPCデータの利活用や重症度医療・看護必要度の分析、救命センターシステムの運用調整等に携わった。

また早期に解消すべき点としては2018年度に行った電子カルテシステム更新時の不具合対応がある。

### —来年度への抱負—

DPC及び診療記録の精度管理と精度向上を引き続き目標とする。本来業務に注力するためにも残っているシステム不具合の解消をメーカーに依頼し早期解消を目指したい。